

GENELEC®

8010A



オペレーティングマニュアル

オペレーティングマニュアル

8010A

Active Monitoring System

概要

バイアンプの Genelec 8010A は、プロフェッショナルな用途向けの極めてコンパクトな 2 ウェイアクティブモニタリングスピーカーです。ドライバー、パワーアンプ、アクティブクロスオーバーフィルター、保護回路を内蔵しています。MDE™ (Minimum Diffraction Enclosure™) エンクロージャはアルミダイキャスト製で、エッジの回折を低減する形状となっています。先進的な DCW™ (Directivity Control Waveguide™) と組み合わせることにより、このデザインは、難しい音響環境においても優れた周波数バランスを提供します。必要に応じて Genelec サブウーファーを用いることで、8010A の低域のレスポンスを拡張できます。

同梱内容

8010A には、メイン電源ケーブル x 1、およびオペレーティングマニュアル (本書) が付属しています。

取付についての検討事項

モニターを正しく配置する

モニターは音響上の軸がリスニング位置の耳の高さに並ぶように配置してください(図 1 および 2 参照)。クロスオーバー周波数周辺のキャンセレーションの問題を最小限に抑えるため、モニターは縦向きで使用することをおすすめします。

対称に配置する

モニターがリスニング位置から同じ距離かつ対称に配置されていることを確認してください。可能であれば、リスニング位置が部屋の左右中心線に来るように、またモニター位置が部屋の中心線から同じ距離になるように配置してください。

反響を最小限に抑える

デスク、キャビネット、コンピューターディスプレイなど、モニター周辺の物体からの音の反射は、不要な色付けやサウンドイメージがぼやけるなどの原因となります。こういった反響面からモニターを離して設置することで、音の反射の影響を最小限に抑えることができます。

最小隙間

モニターがキャビネットのような閉鎖された空間や壁内部に埋め込み形で取り付けられる場合、アンプが十分に冷却され、リフレックスポートが正しく機能するようにする必要があります。

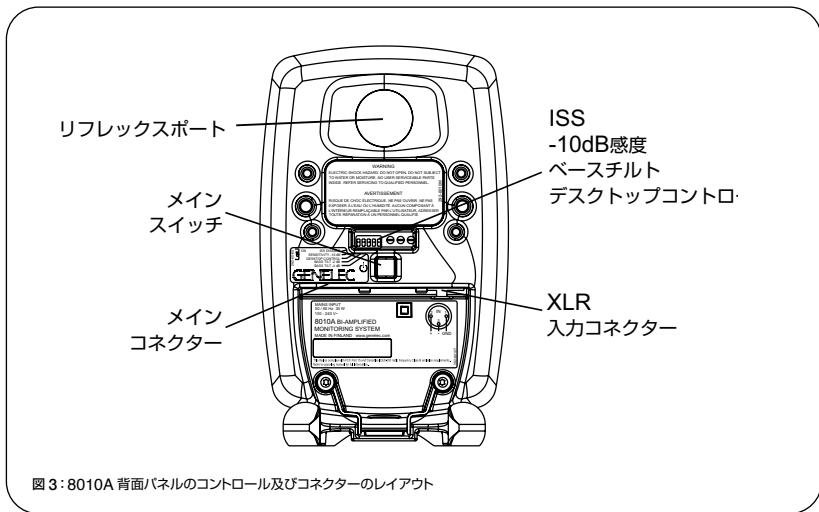
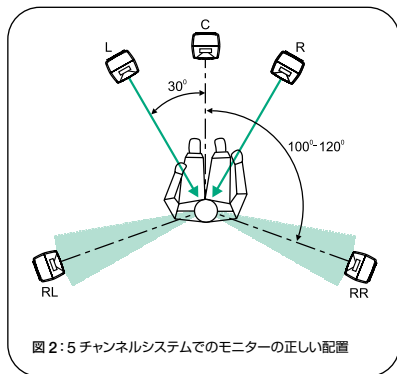
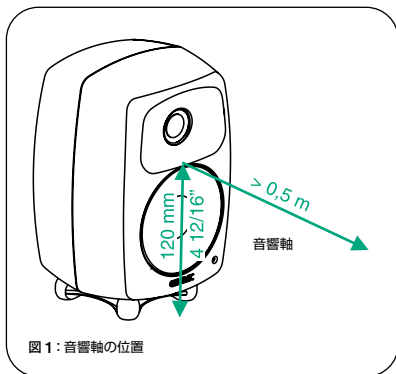
背後、上、両側に少なくとも 2.5cm 間隔を空けてください。アンプ周辺の空間では、環境温度が 35 度を超えないよう換気をする、または十分な空間を取る必要があります。

接続

オーディオ信号ケーブルを全て接続してから、メイン電源ケーブルを接続します。

8010A には XLR 10 k Ω オーディオ入力コネクター x 1 が装備されています。また、Genelec ディーラーにより提供される適切なアダプターケーブルを使用して、アンバランス RCA ラインレベルのオーディオソースを接続することもできます。8010A にはアンプが内蔵されているため、パワーアンプは必要ありません。8010A はパワーアンプ、内蔵アンプ、レシーバーのラウドスピーカー出力には絶対に接続しないでください。

全てのオーディオ接続が完了したら、付属のメイン電源ケーブルを使用してモニターを電源に接続します。自動でスイッチが入ります。



モニター取付環境	デスクトップ	ベーストルト
フラットな無響レスポンス	OFF	OFF
湿度の高い室内で自立	OFF	OFF
反響する室内で自立	OFF	-2 dB
壁際	OFF	-4 dB
反響面上にニアフィールドで	ON (-4 dB @ 200 Hz)	-2 dB
隅またはキャビネット内部	OFF	-6 dB

表 1 :さまざまな音響環境に対して推奨されるトーンコントロール設定

ISS™ 自動スタート機能

ラウドスピーカーの電源スイッチが [ON] になっている場合、ラウドスピーカーの ISS™ (Intelligent Signal Sensing™) が有効 (ディップスイッチ = 下の位置) となっています。

再生が終了して一定時間が経過すると、自動でスタンバイモードに入ります。スタンバイモード時の電力消費量は通常 0.5 ワット未満です。

ソースからの入力信号が検出されると自動的にスタンバイモードから復帰します。復帰にはわずかな遅延が生じます。ISS 機能が不要な場合、背面パネルの [ISS Disable] スイッチを [ON] 位置に設定することで、無効に切り替えることができます。

感度調整

8010A の入力感度 (再生レベル) にはノーマルと -10 dB の 2 種類の設定があります。ノーマル設定は出荷時デフォルトで、-10 dB 設定は背面の [SENSITIVITY -10 dB] スイッチを [ON] にすることで選択できます。出力レベルはそれぞれ 100 dB @ -6dBu および 90 dB @ -6 dBu です。希望の再生レベルとボリュームコントロール解像度を提供するため設定を選択します。

トーンコントロール

Genelec 8010A の周波数特性は、背面のトーンコントロールスイッチを設定することにより、音響環境に合わせて調整できます。コントロールには [Bass Tilt] と [Desktop] があります。表 1 は、さまざまな状況での典型的な設定例を示しています。図 4 は、無響へのコントロールの効果を示しています。

全てのスイッチを [OFF] 位置に設定して調整を開始します。設定のさまざまな組み合わせを体系的に計測または試聴して、最適な周波数バランスを探します。

ベーストルト

[Bass Tilt] コントロールスイッチは、モニターの低域レスポンスに 3 種類の減衰レベルを提供します。通常、モニターが壁のそばや部屋の境界付近に設定されている場合に必要となります。減衰レベルは -2 dB (スイッチ 1 を [ON] にする)、-4 dB (スイッチ 2 を [ON] にする)、-6 dB (両方のスイッチをオンにする) です。

デスクトップコントロール

[Desktop] 低周波コントロール (スイッチ 3) は、200 Hz 付近の低周波を 4 dB 単位で減衰します。この機能は、テーブルやその他の水平な反響面上にモニターが配置されている場合に生じることの多いブーストを補正するようデザインされています。

取付オプション

8010A はいくつかの取付オプションを提供しています。Iso-Pod™ (Isolation Positioner/Decoupler™) 防振テーブルスタンドを使用すると、リスナーに向けてモニターに角度をつけることができます。背面に3組のネジ穴が用意されており、それぞれOmnimount®、VESA、Sanusマウントに対応しています。使用可能なオプション一覧については、www.genelec.jp にて Genelec アクセサリーカタログをご覧ください。正規 Genelec ディーラーまでお問い合わせください。

メンテナンス

ユニット内部にオーナー自身で点検修理が可能な部分はありません。8010A の保守や修理は、Genelec 認定サービスセンターのみ実施可能です。

安全性についての検討事項

8010A は国際安全基準に準拠するようデザインされていますが、安全な動作を確保し、モニターを安全な動作条件下に保つため、以下の警告を順守する必要があります。

- 保守および修理を認定サービス以外の者が実施してはけません。モニターエンクロージャを解体してはいけません。
- モニターを水または湿気に曝さないでください。花ビンなど液体で満たされた物体をモニターの上や付近に置かないでください。
- このモニターは 85 dB を上回る音圧レベルを生成できますが、このレベルは聴覚に恒久的な損傷を与える場合があります。
- 十分な冷却を保つため、モニターの背後で空気が対流している必要があります。モニター周辺の空気の流れを遮らないようにしてください。
- アンプは主電源コードがアンプまたは電源コンセントから取り外されていなければ、AC 電源から完全には接続解除されません。

保証

本製品は、材料または製造上の瑕疵および不具合に関して2年間保証されています。販売条件および保証条件について詳しくは販売店にお問い合わせください。

FCC 規則への準拠

本製品は、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。動作は次の2条件に基づきます。

本機器が有害な妨害の原因とならないこと、および本機器が不要な動作の原因となる妨害を含むあらゆる妨害を受信すること。

注: 本装置は、テストの結果 FCC 規則のパート 15 に従い、クラス B のデジタルデバイスの制限を遵守していることが確認されています。これらの制限は、住宅に設置するにあたり有害な妨害に対する適切な保護を提供することを目的としています。本装置は無線周波エネルギーを発生、使用、放射しており、指示に従わずに設置または使用された場合、無線通信への有害な妨害の原因となる場合があります。ただし、特定の場所に設置することによって妨害が発生しないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信の有害な妨害の原因となる場合は（装置電源をオン/オフすることでご確認いただけます）、以下の対策を1つ以上行って妨害を正すことをおすすめします。

- 受信アンテナの向きまたは場所を変更する。
- 装置と受信機の距離をさらに空ける。
- 受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに装置を接続する。
- 取扱店または経験豊富なラジオ技術者またはテレビ技術者に相談する。

製造者によって明示的に許可されていない変更を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。

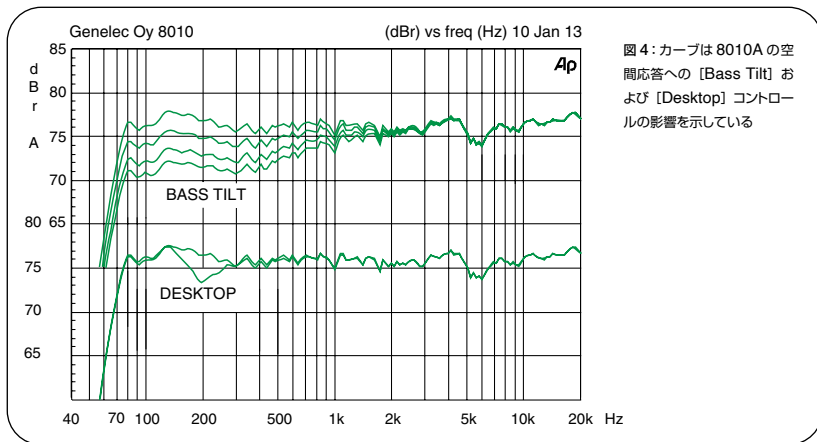


図4：カーブは8010Aの空間応答への[Bass Tilt]および[Desktop]コントロールの影響を示している

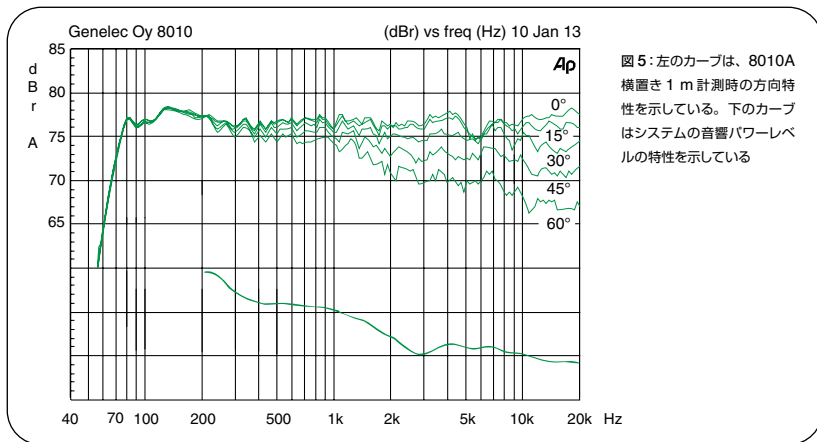


図5：左のカーブは、8010A横置き1m計測時の方向特性を示している。下のカーブはシステムの音響パワーレベルの特性を示している

システム仕様

低域カットオフ周波数、-6 dB	≤ 67 Hz
高域カットオフ周波数、-6 dB	≥ 25 kHz
フリー空間周波数特性 (± 2.5dB)	74 Hz-20 kHz
瞬間最大音圧レベル、軸上、半空間、 100 Hz ~ 3 kHz @ 1 m @ 0.5 m	≥ 96 dB SPL ≥ 102 dB SPL
RMS 最大音圧レベル、IEC 特性ノイズと同条件 (ドライバユニット保護回路による制限)、@ 1 m	≥ 91 dB SPL
ベア毎の最大ピーク音圧レベル、コンソール上、 @ 1 m	≥ 105 dB
残留ノイズレベル、フリー空間、軸上、 @ 1 m (A 特性)	≤ 5 dB
高調波歪み、80 dB SPL、軸上、@ 1 m 周波数：70 ~ 400 Hz >400 Hz	< 3 % < 0.5 %
ドライバー ウーファー	76 mm (3 インチ)、 コーン
ツイーター	19 mm (3/4 インチ)、 メタルドーム
質量	1.5 kg
外寸 Iso-Pod™ テーブルスタンドを含む高さ Iso-Pod™ テーブルスタンドを含まない高さ 幅 奥行き	195 mm 181 mm 121 mm 115 mm

クロスオーバーセクション

入力端子 XLR、メス、10 k Ω	ピン 1 gnd ピン 2 + ピン 3 -
入力レベル (100 dB SPL 出力 @ 1 m)	-6 dBu (Sensitivity -10 dB オフ)
最大出力相対レベルコントロール範囲	-10 dB (Sensitivity -10dB オン)
デスクトップコントロール動作範囲	0 ~ -4 dB @ 200 Hz
クロスオーバー周波数、ウーファー/ツイーター	3.0 kHz
ベースチルトコントロール動作範囲 (-2 dB 単位)	0 ~ -6 dB @ 100 Hz
[CAL] 位置は全てのトーンコントロールと [Sensitivity -10 dB] 機能が [OFF] に設定されている状態	

アンプセクション

ベースアンプ出力 (8 Ω)	25 W
トレブルアンプ出力 (8 Ω)	25 W
長時間出力は保護回路により制限	
アンプシステム歪み (通常出力 THD+N 時)	≤ 0.08 %
メイン電圧	100 - 240 V AC
電圧動作範囲	± 10 %
消費電力 スタンバイ 待機 フル出力	<0.5 W 5 W 30 W

GENELEC®

株式会社ジェネレックジャパン

<本社>

107-0052

東京都港区赤坂二丁目22番21号

修理お問い合わせ先

<ジェネレックサービスセンター>

電話番号:050-3786-1236

平日10:00~18:00

(夏季/年末年始休業を除く)

修理のご依頼は、お電話または修理依頼フォームがご利用いただけます。修理依頼フォームは、Web サイトのカスタマー・サービス内にご用意しております。

www.genelec.jp/customer-service/

www.genelec.jp

Genelec ドキュメント D0117R001-1 Copyright Genelec Oy および株式会社ジェネレックジャパン 2022年2月
全てのデータは予告なく変更する場合があります。